

# 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	ガッコウシブン 材サカガクイ 学校法人 大阪歯科大学								
フリガナ大学の名称	材サカガクイガクイ 大阪歯科大学大学院 (Osaka Dental University Graduate School)								
大学本部の位置	大阪府大阪市中央区大手前1丁目5番17号								
大学の目的	教育基本法の規定する教育の一般目的と方針に則り、歯学に関する学術を中心として、深く専門領野の学理と技術を教授研究し、必要な知識と技術、並びに道徳的理念を授け、応用能力を涵養して調和のとれた人材の育成を目的とする。								
新設学部等の目的	自らが使命感をもって口腔を中心とした医療を通じて、肉体的、精神的及び社会的にも健康を回復し向上に役立つ全人的医療に貢献する能力を持つとともに、本学が教育理念とする人材の育成に尽力できる人材を養成、また、高度な専門的知識と技能を持つとともに、歯科医療の変革に応じられる歯科医療人を養成できる人材、並びに医療保健、特に口腔科学に関連する教育者と研究者を指導し、教員や研究者の組織の人材管理と運営ができる人材を養成して、歯科医療教育と研究を進展させるとともに、人々の健康の増進に寄与することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】
	医療保健学研究科 [Graduate School of Health Sciences] 口腔科学専攻博士課程(後期) [Doctor's Course of Oral Sciences] 計	3年	3人	-人	9人	博士(口腔科学) [Doctor of Oral Sciences]	平成32年4月 第1年次	大阪府枚方市牧野本町1丁目4番4号	医療保健学部 口腔保健学科 口腔工学科 大学院医療保健学研究科 口腔科学専攻(修士課程) 14条特例の実施
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)		平成32年4月名称変更予定 医療保健学研究科口腔科学専攻(修士課程)→医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程(前期)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医療保健学研究科 口腔科学専攻博士課程(後期)	講義	演習	実験・実習	計	15 単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	医療保健学研究科 口腔科学専攻博士課程(後期)	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			7人 (7)	5人 (5)	2人 (2)	4人 (4)	18人 (18)	0人 (0)	12人 (12)
	計		7 (7)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	18 (18)	0 (0)	- (-)
	既設分	医療保健学研究科 口腔科学専攻(修士課程) 歯学研究科(博士課程)	9 (9)	5 (5)	2 (2)	4 (4)	20 (20)	0 (0)	25 (25)
22 (22)			19 (19)	24 (24)	20 (20)	85 (85)	0 (0)	48 (48)	
計		31 (31)	24 (24)	26 (26)	24 (24)	105 (105)	0 (0)	- (-)	
合計		31 (31)	25 (25)	26 (26)	24 (24)	106 (106)	0 (0)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		69人 (69)		0人 (0)		69人 (69)		
	技術職員		4人 (4)		0人 (0)		4人 (4)		
	図書館専門職員		4人 (4)		3人 (3)		7人 (7)		
	その他の職員		79人 (79)		4人 (4)		83人 (83)		
計		156人 (156)		7人 (7)		163人 (163)			

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	校 舎 敷 地		81,990.50 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	81,990.50 m <sup>2</sup>				
	運 動 場 用 地		45,859.33 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	45,859.33 m <sup>2</sup>				
	小 計		127,849.83 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	127,849.83 m <sup>2</sup>				
	そ の 他		4,296.08 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	4,296.08 m <sup>2</sup>				
	合 計		132,145.91 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	132,145.91 m <sup>2</sup>				
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
			56,738.73 m <sup>2</sup> (56,738.73m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0m <sup>2</sup> )	56,738.73 m <sup>2</sup> (56,738.73m <sup>2</sup> )				
教室等	講義室		演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	24 室		16 室	18 室	2 室 (補助職員 0人)	2 室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称		室 数		大学全体			
			医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程(後期)		17 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部等单位での特定 不能なため、大学全 体の数	
	医療保健学研究科 口腔科学専攻博士課程 (後期)		183,085 [63,004] (183,085 [63,004])	2,234 [1,247] (2,234 [1,247])	4,922 [3,165] (4,922 [3,165])	1,870 (1,870)	0 (0)	0 (0)		
	計		183,085 [63,004] (183,085 [63,004])	2,234 [1,247] (2,234 [1,247])	4,922 [3,165] (4,922 [3,165])	1,870 (1,870)	0 (0)	0 (0)		
図書館			面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体		
			3,745.47m <sup>2</sup>		372	321,000				
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体		
			3,076.44m <sup>2</sup>		テニスコート4面, 弓道場, 相撲場					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の 見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究費等は、研究科単 位での算出不能のた め、学部との合計。 共同研究費等は大学全 体。 図書購入費には、電子 ジャーナル・データ ベースの整備費(運用 コストを含む。)を含 む。
		教員1人当り研究費等		450 千円	450 千円	450 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		32,700 千円	32,700 千円	32,700 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	300 千円	300 千円	300 千円	300 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	500 千円	300 千円	300 千円	300 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		700 千円	600 千円	600 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立学校経常費補助金, 資産運用収入, 雑収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		大阪歯科大学							
	学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
	歯学部		年	人	年次 人	人		倍		
	歯学科		6	160	—	960	学士(歯学)	0.80	昭和27年度	大阪府枚方市楠葉 花園町8番1号
	医療保健学部							0.76		
	口腔保健学科		4	70	—	140	学士(口腔保健学)	0.89	平成29年度	大阪府枚方市牧野 本町1丁目4番4号
	口腔工学科		4	30	—	60	学士(口腔工学)	0.44	平成29年度	
	大学院医療保健学研究科							1.40		大阪府枚方市牧野 本町1丁目4番4号
	大学院口腔科学専攻修士課程		2	10	—	10	修士(口腔科学)	1.40	平成30年度	
	大学院歯学研究科							0.86		大阪府枚方市楠葉 花園町8番1号
歯科基礎系専攻		4	12	—	48	博士(歯学)	0.16	昭和36年度		
歯科臨床系専攻		4	18	—	72	博士(歯学)	1.56	昭和36年度		
附属施設の概要			名称：大阪歯科大学附属病院 目的：診療を通じて、歯学に関する教育研究を行う。 所在地：大阪府大阪市中央区大手前1丁目5番17号 設置年月：昭和27年2月 規模等：土地3,353.94m <sup>2</sup> , 建物39,641.26m <sup>2</sup>							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

## 教 育 課 程 等 の 概 要

（医療保健学研究科口腔科学専攻博士課程（後期））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	医療保健開発論	1前	1			○			2				1	兼1	オムニバス，共同（一部） ※実習
	医療保健労働衛生論	1前	1			○			1	1				兼2	オムニバス
	医療保健人材管理学	1前	1			○				1				兼2	オムニバス
	医療保健組織運営論	1前	1			○				1				兼4	オムニバス
	口腔科学研究特論	1前	1			○			5	1				兼1	オムニバス，共同（一部）
	口腔科学研究指導論	1前	1			○			4	2				兼2	オムニバス
	小計（6科目）		—	6			—			6	4		1	兼12	
専門科目	口腔科学研究指導実習	1後～3後	1					○	7	5	2	4			
	小計（1科目）		1						7	5	2	4			
専門研究科目	口腔科学高度専門研究	1後～3後	8					○	7	5	2	4			
	小計（1科目）	—				—			7	5	2	4			
合計（8科目）		—	15			—			7	5	2	4		兼12	
学位又は称号	博士（口腔科学）		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）									
修 了 要 件 及 び 履 修 方 法						授 業 期 間 等									
3年以上在学し，共通科目（必修）6単位，専門科目（必修）1単位，専門研究科目（必修）8単位，計15単位以上修得し，博士論文の審査及び試験に合格すること。						1 学年の学期区分			2期						
						1 学期の授業期間			15週						
						1 時限の授業時間			90分						

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

基礎となる学部(医療保健学部)の教育課程等の概要															
(医療保健学部口腔工学科)															
科目区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	キャリア教育	医療保健学概論	1前	1			○			1				兼3 オムニバス・共同 (一部)	
		早期臨床体験学習	1前	1					○					兼2 共同	
		医療倫理学	1前	1				○				1		兼1	
		小計 (3科目)	—	3	0	0	—			1	0	0	1	0	兼5
	教養教育	医療保健教養学	文章表現	1前	1			○							兼1
			統計学	1前	1			○							兼1
			心理学 I	1前	1			○							兼1
			造形美術学概論	1前	1			○							兼1 ※演習
			運動生理学	1前	1			○							兼1 ※演習
			物理学	1前	1	1		○							兼1
			化学	1前	1	1		○							兼1
			生物学	1前	1	1		○							兼1
	小計 (8科目)	—	5	2	0	—			0	0	0	0	0	兼8	
	情報教育	情報教育学	情報科学 I	1前	1			○							兼3 共同 (一部) ※演習
			情報科学 II	1後	1			○							兼3 共同 (一部) ※演習
		小計 (2科目)	—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	兼3	
語学教育	語学教育学	英語	1前・後	2			○							兼3 共同	
		中国語	1前・後	2			○							兼1	
		英語コミュニケーション	2前	1			○							兼3 共同	
		歯学英语	2後	1			○							兼1	
		小計 (4科目)	—	2	2	0	—		0	0	0	0	0	兼5	
基礎系口腔科学	口腔医療基礎学	解剖組織学	1前	2			○							兼4 共同 (一部) ※実習	
		口腔組織・発生学	1後	1				○		1				兼1 共同 (一部) ※講義	
		口腔解剖学	1前	2			○			1					
		口腔解剖学実習	1後	3					○				1	兼1 共同	
		生理学	1前	1					○					兼1 ※講義	
		口腔生理学	1前	1					○					兼1 ※講義	
		顎口腔機能学	1後	1			○					1			
		顎口腔機能学演習	2後	1				○		1	1	1		兼1 共同	
		薬理学	1後	1			○							兼1 ※演習	
		歯科理工学 I	1前・後	4			○			1					
		歯科理工学 II	1後	1			○			1					
		歯科理工学演習	2前	2				○		1	1		1	兼1 共同 (一部) ※講義	
		小計 (12科目)	—	20	0	0	—		2	1	1	1	1	兼9	
専門基礎科目	社会系口腔科学	社会学	2後	2			○							兼1	
		社会福祉論 I	1後	2			○							兼1	
		歯科技工管理学	3後	1			○				1				
		社会調査学	2前	1			○							兼1	
		医療制度 I	2後	1			○							兼1	
		医療制度 II	4後	1			○							兼1	
		社会保障論 I	1前	2			○							兼1	
				医療事務学 I	3前			1	○						兼1
			医療事務学 II	3後			1	○						兼1	
	社会系口腔科学	社会福祉学	社会福祉論 II	2後			2	○							兼1
			社会保障論 II	2後			2	○							兼1
			社会福祉調査学	3前			1	○							兼1
			心理学 II	3前			1	○							兼1
			ソーシャルワーク論 I	1前・後			4	○							兼1
			ソーシャルワーク論 II	2前・後			4	○							兼1
			ソーシャルワーク論 III	4前・後			4	○							兼1
			地域福祉論 I	1前			2	○							兼1
			地域福祉論 II	2前			2	○							兼1
			福祉行財政と福祉計画	3前			2	○							兼1
			福祉経営論	4前			2	○							兼1
			高齢者福祉論	1後			2	○							兼1
			介護概論	1前			2	○							兼1
			障害者福祉論	3前			2	○							兼1
			児童・家庭福祉論	3後			2	○							兼1
公的扶助論			4前			2	○							兼1	
就労支援論	1後			1	○							兼1			
権利擁護と成年後見論	3後			2	○							兼1			
更生保護論	4前			1	○							兼1			
社会福祉演習 I	3後			1		○						兼1			
社会福祉演習 II	3後			2		○						兼1			
社会福祉演習 III	4後			2		○						兼1			
社会福祉実習指導 I	3前			1		○						兼1			
社会福祉実習指導 II	4前・後			2		○						兼2 共同			
社会福祉実習	4前			6		○						兼3 共同			
		小計 (34科目)	—	10	0	56	—		0	0	1	0	0	兼14	

基礎となる学部(医療保健学部)の教育課程等の概要														
(医療保健学部口腔工学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	歯科保存保健学	保存修復学	2前	1			○							兼2 オムニバス
		歯内治療学	2前	1			○							兼1
		歯周病学	2前	1			○							兼3 オムニバス
	口腔機能修復学	有床義歯学	2前	1			○							兼1
		クラウンブリッジ学	2前	1			○			1				
		口腔インプラント学	2後	1			○							兼3 オムニバス
		オーラルアプライアンス学	2後	1			○			1				
		オーラルアプライアンス技工学	2後	1			○		○	1				兼2 共同
	口腔外科保健学	口腔外科学	2後	1			○							兼1
		顎・生体技工学	2後	1			○							兼3 共同(一部)※実習
		感染予防学	2後	1			○							兼1
	口腔保健予防学	小児歯科技工学	2後	2			○							兼4 オムニバス ※実習
		歯科矯正技工学	2後	2			○							兼3 共同(一部)※実習
	高齢者口腔保健学	高齢者歯科学	2前	1			○			1				
		障害者歯科学	3前	1			○			1				
	口腔リハビリテーション学	口腔機能障害学	3前	1			○							兼1
		口腔リハビリテーション技工学	3後	1			○		○	1				兼2 共同(一部)※講義
	口腔デジタル工学	口腔デジタル基礎工学	2前	1			○				1			
		口腔デジタル技工学	2後	1			○				1			
		電磁波応用技工学	2後	1			○			1				
口腔デジタル技工学実習		3前	2			○		○		1			兼2 共同	
歯科技工学	歯科技工学概論	1前	1			○					1			
	保存修復技工学実習	2後	1			○		○		1			兼2 共同	
	総義歯学実習	2前・後	3			○		○	1				兼2 共同	
	局部床義歯学実習Ⅰ	2前・後	3			○		○	2	1	1		共同	
	局部床義歯学実習Ⅱ	3前・後	4			○		○	1	1	2		共同	
	局部床義歯学実習Ⅲ	4前	2			○		○	1	1	1	1	共同	
	クラウンブリッジ技工学実習Ⅰ	2前・後	3			○		○	1	1	1	1	共同	
	クラウンブリッジ技工学実習Ⅱ	3前・後	4			○		○	1	1	1	1	共同	
	クラウンブリッジ技工学実習Ⅲ	4前	2			○		○	1	1	1	1	共同	
	口腔インプラント技工学実習	3前・後	2			○		○		2	1		共同	
審美歯科技工学実習	3後	1			○		○		1	1	1	共同		
小計(33科目)	—	51	0	0	—			3	0	2	2	1	兼33	
総合医学教育	口腔隣接医療学	医学一般Ⅰ	3前	1			○							兼1
		医学一般Ⅱ	3後	1			○							兼1
		医療コミュニケーション学	2前	1			○							兼1
		臨床検査学	3後	1			○							兼1
		医科歯科連携学	3前	1			○							兼1
		医科歯科連携学実習	3後	1			○		○					兼2 共同
		臨床運動生理学	3前	1			○							兼1
		歯科心身医学	3後	1			○							兼1
小計(8科目)	—	8	0	0	—			0	0	0	0	0	兼5	
臨床教育	歯科技工学	口腔工学	4前	2			○				1			
		口腔工学病院臨床実習Ⅰ	3前・後	8			○		○	2	1	1	1	共同
		口腔工学病院臨床実習Ⅱ	4前	4			○		○	2	1	1	1	共同
		口腔工学訪問実習	4前	1			○		○	2	1			共同
小計(4科目)	—	15	0	0	—			3	0	2	1	1		
総括教育	総括教育科目	口腔工学総論Ⅰ	4前・後	3			○			4	1	2	2	兼2 オムニバス・共同(一部) ※
		口腔工学総論Ⅱ	4後	2			○			1				
小計(2科目)	—	5	0	0	—			4	1	2	2	0	兼2	
合計(110科目)			—	121	4	56	—		4	1	2	2	1	兼75
学位又は称号			学士(口腔工学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)					
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
キャリア教育3単位, 教養教育7単位, 情報教育2単位, 語学教育4単位, 基礎系口腔科学20単位, 社会系口腔科学10単位, 臨床系専門教育51単位, 総合医学教育8単位, 臨床教育15単位, 総括教育5単位の合計125単位と, 学士試験の合格。(履修科目の登録上限: 1・2学年 52単位 3・4学年 48単位) <社会福祉士コース> キャリア教育3単位, 教養教育7単位, 情報教育2単位, 語学教育4単位, 基礎系口腔科学20単位, 社会系口腔科学10単位, 臨床系専門教育51単位, 総合医学教育8単位, 臨床教育15単位, 総括教育5単位の合計125単位と, 学士試験の合格。 これに加えて, 社会系口腔科学中の社会福祉士54単位の取得(ただし, セメスターごとの成績評価で必修科目のGPAが2.0以上低下した学生については, 以後の社会福祉士の自由科目の選択を制限する。なお, この54単位については, 卒業に必要な要件としない。)(履修科目の登録上限: 1・2学年 52単位 3・4学年 48単位) <医療事務コース> キャリア教育3単位, 教養教育7単位, 情報教育2単位, 語学教育4単位, 基礎系口腔科学20単位, 社会系口腔科学10単位, 臨床系専門教育51単位, 総合医学教育8単位, 臨床教育15単位, 総括教育5単位の合計125単位と, 学士試験の合格。 これに加えて, 社会系口腔科学中の医療事務学2単位の取得(なお, この2単位については, 卒業に必要な要件としない。)(履修科目の登録上限: 1・2学年 52単位 3・4学年 48単位)						1学年の学期区分			2期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(医療保健学研究科口腔科学専攻(修士課程))

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎 科目	研究方法論	1前	1			○			3						オムニバス
	医療統計学特論	1前	1			○								兼1	
	論文作成法	1前	1			○								兼1	※演習
	医療データ処理論	1前	2			○								兼1	※演習
	英会話特論	1前	1			○								兼1	
	英語表現特論	1前	1			○								兼1	
	国際医療保健論	1前	2			○								兼8	オムニバス, 共同(一部) ※演習
	医療保健教育学 I	1前	1			○			2					兼2	オムニバス, 共同(一部) ※演習
	デジタルデンティストリー学	1前	1			○			1			1		兼3	オムニバス ※演習
	小計(9科目)	—	11			—			6			1		兼17	
専門 科目	医療保健 基礎学分 野	医療保健基礎学特論	1後		1		○		2	2		1			オムニバス
		医療保健基礎学特論演習	1後～ 2前		1		○		2	2		1			オムニバス, 共同(一部)
	医療保健 教育学分 野	医療保健教育学Ⅱ	1後		1		○		2	2					オムニバス
		医療保健教育学実習	1後～ 2前		1			○	2	2	1	1			オムニバス, 共同(一部) ※講義・演習
	医療保健 政策学分 野	医療保健政策特論	1後		1		○		1	2					オムニバス
		医療保健政策特論演習	1後～ 2前		1		○		1	2					共同
	口腔機能 回復学分 野	口腔機能回復学特論	1後		1		○		2					兼3	オムニバス ※演習
		口腔機能回復学特論実習	1後～ 2前		1			○	2					兼3	オムニバス, 共同(一部) ※講義・演習
	先進口腔 保健学分 野	先進口腔保健学	1後		1		○		3	1				兼1	オムニバス
		先進口腔保健学実習	1後～ 2前		1			○	3	1	1	1		兼3	オムニバス, 共同(一部) ※講義・演習
	口腔材料 学分野	口腔材料学特論	1後		1		○		2	1	1	1			オムニバス, 共同(一部) ※演習
		口腔材料学特論演習	1後～ 2前		1			○	3	1	1				オムニバス, 共同(一部) ※講義
	先進口腔 工学分野	先進口腔工学	1後		1		○		3		1	2		兼1	オムニバス, 共同(一部) ※演習
		先進口腔工学実習	1後～ 2前		1			○	3		1	2		兼1	オムニバス, 共同(一部) ※講義・演習
	小計(14科目)	—		14		—		9	5	2	4		兼13		

専門研究	専門研究	1前～ 2後	14				○		9	5	2	4			オムニバス
	小計(1科目)	—	14				—		9	5	2	4			
合計(24科目)		—	25	14	2		—		9	5	2	4			兼25
学位又は称号		修士(口腔科学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)							
修了要件及び履修方法								授業期間等							
2年以上在学し、必修科目25単位、専門科目から選択必修2単位、専門科目から選択4単位以上、計31単位以上を修得し、修士論文の審査及び試験に合格すること。								1 学年の学期区分				2期			
								1 学期の授業期間				15週			
								1 時限の授業時間				90分			

む

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(医療保健学研究科口腔科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	医療保健開発論	<p>研究開発能力や産学連携能力を養成する科目である。口腔科学において優れた研究を実践するには、多くの開発を成し遂げてきた研究機関の状況を知り、広い視野を持ち、独創的な発想ができるとともに、他機関と協力して研究を遂行する能力が必要である。この科目では、口腔科学に関連する企業での学修と学生間の討議によって多角的な研究開発能力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(17. 樋口鎮央/2回) 歯科関連企業と教育機関との共同での歯科用デジタル機器の開発について講義で学修する。</p> <p>(5. 橋本正則/1回) 歯科材料の開発・生産企業と教育機関との新規材料の開発について講義で学修する。</p> <p>(2. 柿本和俊/1回) 多くの歯科関連企業と教育機関が連携した新しい歯科用器材の開発について講義で学修する。</p> <p>(25. 梶田恵介/2回) 医薬部外品・雑貨品等の口腔ケア用品の研究開発や生産状況を企業で実地研修して学修する。</p> <p>(2. 柿本和俊, 5. 橋本正則, 16. 樋口鎮央/2回) (共同) これまでの企業研修の調査から今後の産学連携の研究開発に関する討議を行い、産学連携の研究開発能力を養成する。</p>	<p>講義 4回 演習 4回 オムニバス方式 共同(一部)</p>
	医療保健労働衛生論	<p>医療機関では電磁波や放射線、各種薬剤や医療機器など、人体に影響を及ぼす可能性があるものを日常的に用いる。また、医療スタッフ、患者双方ともに常に感染の危険にさらされている。更に医療業界全体に長時間労働、人材不足などといった問題も横たわっている。医療スタッフには、これら労働災害につながる恐れのあるものに対する知識はもちろん、高い危機管理能力が求められることから、本科目では基本的な労働衛生に関する制度や法などについて学修するとともに、労働災害を減少させるために国が重点的に取り組む事項を定めた第13次労働災害防止計画にも触れ、現在労働衛生で考えていかねばならない諸問題について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(3. 楠本哲次/1回) 労働者の安全と健康の維持にとって重要な労働衛生の必要性と基本的事項について講義で学修する。</p> <p>(10. 中塚美智子/3回) 労働基準法・労働安全衛生法労働衛生に関する関連法規である労働基準法・労働安全衛生法、産業保健及び第13次労働災害防止計画について講義で学修する。</p> <p>(24. 奥田恵司/2回) 業環境管理、作業管理、健康管理、労働衛生教育及び労働衛生管理体制の労働衛生における5管理について講義で学修する。</p> <p>(23. 大河貴久/2回) 医療機関における安全の確立のためのリスクアセスメントについて、講義で学修する。</p>	<p>講義 8回 オムニバス方式</p>

共通科目	医療保健人材管理学	<p>組織では多用な人材，多用な部署が共通の目標に向かって動く。特に医療機関ではさまざまな資格を有するスタッフが協働し，一人ひとりの患者に向き合う。その際，スタッフ個々の専門性のみならずチームが持つ能力を遺憾なく発揮し，組織の理念，目標を達成できることが望ましい。本科目ではその中心的要素である人材の確保，人材育成及び活用等，人的資源管理に必要な知識・技術等について学修するとともに，キャリア開発についても理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(27. 田中雅子/3回) 組織とは何か，組織における労務管理及び組織における人材育成及び活用法について講義で学修する。</p> <p>(10. 中塚美智子/2回) 労働者のキャリア開発と医療機関スタッフのキャリア開発について講義で学修する。</p> <p>(26. 高岡裕/1回) 医療機関における組織の構造と特徴，一般組織との相違点について講義で学修する。</p> <p>(29. 築部卓郎/2回) 病院における人的資源を効率的に管理運営するための人的資源管理について講義で学修する。 病院の人的資源管理について，これまで学修した要点を整理して討議することで理解を深める。</p>	講義 7回 演習 1回 オムニバス方式
	医療保健組織運営論	<p>組織では多用な人材，多用な部署が共通の目標に向かって動く。特に医療機関ではさまざまな資格を有するスタッフが協働し，一人ひとりの患者に向き合う。その際，スタッフ個々の専門性のみならずチームが持つ能力を遺憾なく発揮し，組織の理念，目標を達成できることが望ましい。強い組織を作るための基礎を知り，また，組織を効果的に動かすために，組織の構造及び機能，リーダーシップ論，意思決定，リスク管理などといった医療機関も含めた組織の運営に必要な知識，理論について学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(8. 神光一郎/1回) 医療法人及び学校法人におけるリスク管理について講義で学修する。</p> <p>(22. 今中雄一/1回) 医療組織を取り巻く社会経済あるいは政策環境について講義で学修する。</p> <p>(28. 田中将之/2回) 医療組織におけるリーダーシップと医療組織の構造及び機能について講義で学修する。</p> <p>(30. 松尾貴巳/2回) 組織における事業計画の策定及び意思決定，管理，更に医療法人及び学校法人等非営利組織と経営管理デザインについて講義で学修する。</p> <p>(19. 佐久間泰司/2回) 組織におけるリスク管理，更に組織におけるコンフリクトマネジメントについて講義で学修する。</p>	講義 8回 オムニバス方式

<p>共通科目</p>	<p>口腔科学研究特論</p>	<p>口腔科学における研究内容を理解し、興味がある課題だけではなく、研究者としての広い視野を養成する科目である。医療保健基礎学分野、医療保健教育学分野、医療保健政策学分野、口腔機能回復学分野、口腔機能回復学分野、先進口腔保健学分野、口腔材料学分野及び先進口腔工学分野の7つの研究分野の研究の現状を理解し、口腔科学における研究のあり方を考え、自己の研究への参考とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(7. 和唐雅博/1回) 医療保健基礎学に関する研究について講義で学修する。</p> <p>(21. 益野一哉/1回) 医療保健教育学に関する研究について講義で学修する。</p> <p>(8. 神光一郎/1回) 医療保健政策学に関する研究について講義で学修する。</p> <p>(1. 糸田昌隆/1回) 口腔機能回復学に関する研究について講義で学修する。</p> <p>(2. 柿本和俊/1回) 先進口腔保健学に関する研究について講義で学修する。</p> <p>(5. 橋本正則/1回) 口腔材料学に関する研究について講義で学修する。</p> <p>(3. 楠本哲次/1回) 先進口腔工学に関する研究について講義で学修する。</p> <p>(7. 和唐雅博, 2. 柿本和俊, 3. 楠本哲次, 1. 糸田昌隆, 5. 橋本正則, 8. 神光一郎/1回) (共同) 大阪歯科大学で行われている口腔科学に関する研究と今後と考えられる研究方針について討議し、学内での横断的な研究能力を養成するとともに研究者としての資質を高める。</p>	<p>講義 7回 演習 1回 オムニバス方式 共同(一部)</p>
-------------	-----------------	--	---

<p>共通科目</p>	<p>口腔科学研究指導論</p>	<p>研究指導に関する知識を獲得し、口腔科学における研究の指導的役割が担える技量を養成する科目である。研究経験がほとんどない学生に対しての研究課題や研究計画に対する立案指導要領や研究補助や助言のあり方を学修するとともに、歯科医学や口腔科学において研究を指導してきた教員が経験してきた実践的経験から知識を得て、指導における留意点や心理的側面について学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(7. 和唐雅博/1回) 研究計画の立案，研究の実施結果の整理等での研究指導者の役割と重要性を講義で学修する。</p> <p>(5. 橋本正則/1回) 大学院入学後間もない大学院学生など研究経験が少ない研究者に対する研究計画立案の指導のあり方を講義で学修する。</p> <p>(20. 本田義知/1回) 研究には多様な設備を使用する必要があることが多い。研究者が使用経験がない設備を適切に使用できるように指導進方法を講義で学修する。</p> <p>(3. 楠本哲次/1回) 研究経験が少ない研究者に研究倫理に基づく臨床研究を立案し，実践させるための指導法を講義で学修する。</p> <p>(11. 濱島淑恵/1回) 調査研究の種類や立案法を学修するとともに，調査研究の立案や実施を経験が少ない研究者に指導できるように指導法を講義で学修する。</p> <p>(19. 佐久間泰司/1回) 良好な研究環境を整え，適切な研究指導を実施するためのハラスメントの認識と防止法について講義で理解を深める。</p> <p>(12. 山中武志/1回) 研究初心者が遭遇することが多い研究上の問題点を理解し，適切な対応と指導ができるように講義で理解を深める。</p> <p>(4. 西崎宏/1回) 研究データを適切に集計し，論文目的からまとめまでが一貫した論文の作成を促すための指導法について講義で学修する。</p>	<p>講義 8回 オムニバス方式</p>
-------------	------------------	--	--------------------------

<p style="text-align: center;">専門科目</p>	<p style="text-align: center;">口腔科学研究指導実習</p>	<p>選択した研究領域に関連する修士課程大学院学生の研究に協力し、助言することで、実践的な研究指導能力を養成する科目である。修士課程大学院学生の研究の立案に対して、主指導教員と副指導教員の指導のもとで、助言を行うとともに、修士課程大学院学生と適切なコミュニケーションを取りながら研究を補助し、主指導教員と副指導教員と協調して、学会発表と論文作成に対する助言を行い、研究指導者としての実践力を身に付ける。</p> <p>(1. 糸田昌隆) 全身疾患発症や心身の虚弱化を認める患者を対象とした口腔へのアプローチの効果検証等、臨床研究を主としてEBM蓄積のための研究を補助・指導し、研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(2. 柿本和俊) 高齢者、特に要介護高齢者の効率的で安全な器質的口腔ケア方法の開発のための研究を補助・指導し、研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(3. 楠本哲次) 高齢者の口腔機能低下対策として、硬組織及び軟組織を再生誘導する課題の研究を補助・指導し、研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(4. 西崎宏) 局部床義歯へのCAD/CAMの応用に関して、研究の実践、指導を行い、フレームワークデザインと加工精度の検証についての研究を補助・指導し、研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(5. 橋本正則) 力学試験やバイオアッセイなど様々な実験手法を用いて、歯科材料及び生体材料の機能評価や生体安全性評価に関する研究を補助・指導し、研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(6. 元根正晴) 高齢者の口腔衛生と全身疾患との関係を研究課題として、研究を補助・指導し、研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(7. 和唐雅博) 病気の原因、経過及び転帰の成り立ちを明らかにすることを研究課題とし、口腔領域に発生する疾患の研究を補助・指導し、研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(8. 神光一郎) 口腔だけではなく、全身の健康づくりに貢献する歯科専門職を養成するため、社会歯科及び医療経済に関する研究を補助・指導し、研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(9. 頭山高子) 基礎教育から臨床実習への連携に関わる教育方法の検討について研究を補助・指導し、研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(10. 中塚美智子) 三次元画像解析手法並びに統計学的手法を用いて、歯及び歯列弓の形態分析に関する研究を補助・指導し、研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(11. 濱島(宮川)淑恵) ケアを要する高齢者とその家族が抱える健康・生活上の問題、彼らに対する支援(高齢者医療・介護の政策やサービス、地域社会を基盤とした多職種連携等)のあり方について取り上げ、研究を補助・指導し、研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(次ページへ続く。)</p>	<p style="text-align: right;">実習 15回</p>
---	---	--	--

<p>専門科目</p>	<p>口腔科学研究指導実習</p>	<p>(前ページから続く。)</p> <p>(12. 山中武志) 口腔常在微生物叢と全身の健康管理との繋がりというテーマに沿って、基本的な微生物培養，分子生物学的手法を用いた研究を補助・指導し，研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(13. 梶貢三子) 臨床実習における歯科衛生過程教育の応用方法構築に関する研究を補助・指導し，研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(14. 錦織 良) 歯科理工学的な観点より生体材料の安全性評価や再生医療に関する研究を物理的，化学的もしくは分子生物学的手法を用いて研究を補助・指導し，研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(15. 首藤崇裕) 材料学及び生物学的な視点から，新規インプラント体の開発やインプラント周囲病変の発症機構の解明を目指した研究を補助・指導し，研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(16. 樋口鎮央) 歯科技工におけるデジタル機器の応用に関して，研究の実践，指導を行い，CADデザインと加工精度の検証について研究を補助・指導し，研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(17. 前嶋亜優子) 歯科衛生士基礎教育における効果的な教育方法に関する研究を補助・指導し，研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p> <p>(18. 三宅晃子) 各種歯科材料表面を模倣したバイオセンサの開発及び各種材料における口腔内の汚れの付着と機構の解明を行い，新規の洗浄剤の開発等の研究を補助・指導し，研究指導者としての実践力を身に付けさせる。</p>	<p>実習 15回</p>
-------------	-------------------	---	---------------

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">専門研究科目</p>	<p>口腔科学高度専門研究</p>	<p>選択した研究領域の内容に基づいて、独創的な発想による研究課題を見つけ、研究を実践し博士論文を作成する科目である。研究指導教員と十分討議の上で、必要な修正を加えたうえで、研究を遂行する。そして、データを収集し、分析、考察を行って、学会発表し博士論文としてまとめる科目である。研究に当たっては、研究経過を主指導教員と副指導教員に報告し、助言を求めるとともに必要に応じて指導を受ける。研究施設・設備として、必要に応じて楠葉学舎、中央歯学研究所及び附属病院が利用可能である。更に、所定の手続きを踏むことで、学外施設を利用することもできる。</p> <p>(1. 糸田昌隆) 全身疾患発症や心身の虚弱化を認める患者を対象とした口腔へのアプローチの効果検証等、臨床研究を主としてEBM蓄積のための研究指導を行う。</p> <p>(2. 柿本和俊) 高齢者、特に要介護高齢者の効率的で安全な器質的口腔ケア方法の開発のための研究指導を行う。</p> <p>(3. 楠本哲次) 高齢者の口腔機能低下対策として、硬組織及び軟組織を再生誘導する課題の研究指導を行う。</p> <p>(4. 西崎宏) 局部床義歯へのCAD/CAMの応用に関して、研究の実践、指導を行い、フレームワークデザインと加工精度の検証について論文指導を行う。</p> <p>(5. 橋本正則) 力学試験やバイオアッセイなど様々な実験手法を用いて、歯科材料及び生体材料の機能評価や生体安全性評価に関する研究指導を行う。</p> <p>(6. 元根正晴) 高齢者の口腔衛生と全身疾患との関係を研究課題として、研究指導を行う。</p> <p>(7. 和唐雅博) 病気の原因、経過及び転帰の成り立ちを明らかにすることを研究課題とし、口腔領域に発生する疾患の研究指導を行う。</p> <p>(8. 神光一郎) 口腔だけではなく、全身の健康づくりに貢献する歯科専門職を養成するため、社会歯科及び医療経済に関する研究の実践・指導を行う。</p> <p>(9. 頭山高子) 基礎教育から臨床実習への連携に関わる教育方法の検討について研究指導を行う。</p> <p>(10. 中塚美智子) 三次元画像解析手法並びに統計学的手法を用いて、歯及び歯列弓の形態分析に関する研究指導を行う。</p> <p>(11. 濱島(宮川)淑恵) ケアを要する高齢者とその家族が抱える健康・生活上の問題、彼らに対する支援(高齢者医療・介護の政策やサービス、地域社会を基盤とした多職種連携等)のあり方について取り上げ、研究指導を行う。</p> <p>(12. 山中武志) 口腔微生物の多様性が口腔疾患のみならず、様々な全身疾患発症につながる点に着目し、微生物培養、分子生物学的手法を応用した研究指導を行う。</p> <p>(13. 梶貢三子) 臨床実習における歯科衛生過程教育の応用方法構築に関する研究指導を行う。</p> <p>(次ページへ続く。)</p>	<p>実習 120回</p>
---	-------------------	---	----------------

<p style="text-align: center;">専 門 研 究 科 目</p>	<p style="text-align: center;">口腔科学高度専門研究</p>	<p>(前ページから続く。)</p> <p>(14. 錦織 良) 歯科理工学的な観点より生体材料の安全性評価や再生医療に関する研究を物理的、化学的もしくは分子生物学的な手法を用いて研究指導を行う。</p> <p>(15. 首藤崇裕) 材料学及び生物学的な視点から、新規インプラント体の開発やインプラント周囲病変の発症機構の解明を目指した研究指導を行う。</p> <p>(16. 樋口鎮央) 歯科技工におけるデジタル機器の応用に関して、研究の実践、指導を行い、CADデザインと加工精度の検証について研究指導を行う。</p> <p>(17. 前唄亜優子) 歯科衛生士基礎教育における効果的な教育方法に関する研究指導を行う。</p> <p>(18. 三宅晃子) 各種歯科材料表面を模倣したバイオセンサの開発及び各種材料における口腔内の汚れの付着と機構の解明を行い、新規の洗浄剤の開発等の研究指導を行う。</p>	<p style="text-align: center;">実習 120回</p>
--	---	--	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この類を作成する必要はない。

学校法人大阪歯科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
大阪歯科大学			
歯学部			
歯学科	160	—	960
医療保健学部			
口腔保健学科	70	—	280
口腔工学科	30	—	120
計	260	—	1,360
大阪歯科大学大学院			
歯学研究科			
基礎歯学専攻(D)	12	—	48
臨床歯学専攻(D)	18	—	72
医療保健学研究科			
口腔科学専攻(M)	10	—	20
計	40	—	140

平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
大阪歯科大学			
歯学部			
歯学科	160	—	960
医療保健学部			
口腔保健学科	70	—	280
口腔工学科	30	—	120
計	260	—	1,360
大阪歯科大学大学院			
歯学研究科			
基礎歯学専攻(D)	12	—	48
臨床歯学専攻(D)	18	—	72
医療保健学研究科			
口腔科学専攻(M)	10	—	20
口腔科学専攻(D)	3	—	9
計	43	—	149

課程変更(認可申請)